



愛川ふれあいの村 今月の風景

2022年12月 自然のたより

初雪の便りが届いたと思ったら、北国はあっという間に1m越えの積雪のニュースが流れたり、日本列島は冬に向けてまっしぐらの勢いです。冷え込む、早朝の中津川には川霧が発生して空気の冷たさを感じさせます。今年の冬は平年に比べ、気温が低く、厳しい寒さになる予報のようです。

そんな中、きれいだった村の紅葉も終わりを迎え、イチヨウやメタセコイヤなど村を代表する落葉樹はほとんど葉を落しました。でも、それは、冬を越すと同時に、春の準備でもあります。冬来たりなば春遠からじです。(高梨)



半寄生植物コシオガマ



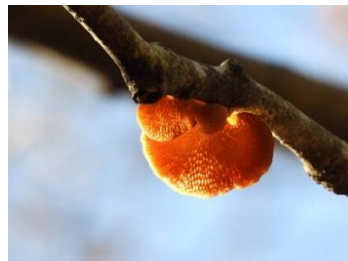
牛脂に来たシジュウカラ



ホソヒラタアブ



縁起の良いヤブコウジ



ハチノスタケ



ポタンヅル



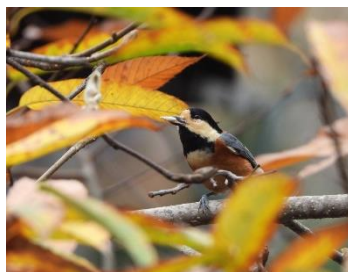
サザンカ



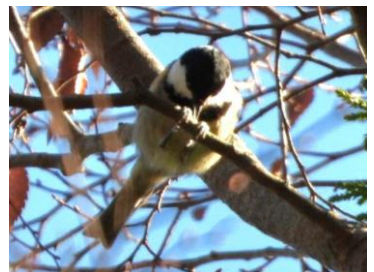
ヒマラヤスギとイカル



ニシキギの実とヒヨドリ



ヤマガラひまわりの種食う



ヒガラ食事中



トゲナナフシ



アカボシゴマダラ



落ち葉とサワガニ



シモバシラ (氷の華)

トピックス ★冬に切り花★

愛川ふれあいの村では、四季折々さまざまな自然を楽しむことができます。外で見る野花も可憐ですが、私には『花のある生活』に憧れがあり、家の中に連れ帰り、花を飾りたいという気持ちがあります。家の中の花と自然の花はまた別の魅力です。

なぜ、花のある生活に憧れるのだろうか？と考えてみると、毎日お花に水をあげたり、花を慈しむ時間をとったりすることへの憧れなのではないかと思うのです。

冬は、花を飾るにはとても恵まれた季節。同じ花でも夏と冬では、暑さがないことで花が長持ちしますし、毎日水を替えなくても長く楽しめることが多いので手間という意味でも楽ちんです。また、切り花は、少し先の季節に旬を迎える花が店先に並ぶことが多いので、季節先取り。これからは春の花が売られていく楽しさもあります。

12月に入りいよいよ冬本番。お部屋の中では、春の花を飾りあたたかい季節を待つ。外に出た時には、冬ならではの空気の冷たさや、いつもより高く感じる空、地肌に見える森や寒さの中に、たくましい草花を楽しむ。

これから迎える新しい年、そんなゆとりのある生活を目指してみたいと思います。(小島)



生き物 ★冬の昆虫★

夏はよく見かけて、声も聞く昆虫たちですが、冬の昆虫はどのように過ごしているのでしょうか。

例えば、セミです。夏にはよく鳴いて、寿命が1週間とよく聞きますが、冬は幼虫の姿で土の中から樹液を吸って生きています。

セミは夏にメスが卵を、枯れ木・樹皮の下など、見つかりにくい場所に産み付けます。最初から土の中ではないんですね。種類によって差はあるそうですが、卵が孵化するのは翌年の梅雨です。孵化して土の中で樹液を吸って過ごすこと2~6年。多くて約7回も冬を越えるえているのです。

昆虫をなかなか見ない冬でも、土の中を少しだけ覗いてみると冬の昆虫が見られるかもしれません。(住友)



旬 ★クコ★

杏仁豆腐の上によく見る赤いクコの実。実は今が旬の時期なのです。秋から冬にかけて赤い艶やかな実をつけます。用途は多岐に渡り、実を漬けて果実酒にしたり、葉や根はお茶にもなります。春先の若芽はお浸しなどにも活用でき、年間を通して様々な楽しみ方が出来るのも魅力の一つです。

スーパーフードとしても認知されており、中性脂肪を抑える効能や血圧、血糖値の抑制、美肌作用などもあるようです。

そんなクコの実も力ごと食べあわせるとお腹を痛めてしまうこともあるようなのでご注意ください。(鎌形)



人間の対立や経済成長の名目で莫大なエネルギーが浪費され、地球温暖化が叫ばれる。地域の特性やその環境を考え人間だけでなくあらゆる生き物たちの地球であることを考え質素な中にも心豊かな生活ができないものかとクズの葉痕を見ながら考えた。(吉田)

来月の見どころ
葉痕の顔から考える
陽だまりに行くと、ホトケノザやナズナ、オオイヌノフグリなどが道いっばいに広がり春の気分になり楽しい。夏のころクズの繁茂していた場所はみんな刈り取られて寂しくなった。しかし、クズは本当にたくましい植物で刈り取られなかった蔓は新しい芽を出していた。芽の下に見えるのが葉痕で、目や口に見えるのは水分を吸い上げたり、できた養分を運んでいた維管束痕であった。仏様のような穏やかな顔をした葉痕。よく見ると今年は寒いなあと驚いたような顔、私は新しい芽に譲るけど何かあればいつでも芽を出す準備をしているよと寂しげな顔など見ていると何かを訴えかけているような気がし思わず見入ってしまう。